

# 京都社会学年報

第11号  
2003年12月

## 〈論文〉

- 意味喪失と討議理論 上村 岳生
- 「紳士」という理想像の誕生と展開  
—— 近代日本の礼儀作法書にみる —— 竹内 里欧
- 外見問題に関する主体化の困難について  
—— 男性型脱毛症とユニークフェイスの事例を参照して —— 戸梶 民夫
- 共働き世帯の家事分担  
—— 保育園児のいる核家族・フルタイム共働き世帯の場合 —— 遠藤 理子
- 女子の言語使用における「思いやり」の原理とその文脈依存性  
—— 学童保育所の子供集団の遊びにおける要求表明の分析を中心に —— 片田孫朝日
- アルコール問題の概念化に関する一考察  
—— 疾病概念を中心に —— 佐藤 寛之

## 〈研究ノート〉

- 近代家族の「伝統化」：性役割分業に関わる「伝統の発明」  
—— 京都市における聞き取り調査から —— ライカイ・ジョンボル

## 〈書評論文〉

- ルーマン理論と現象学  
Niklas Luhmann,  
*Die neuzeitlichen Wissenschaften und die Phänomenologie.*  
(Wien: Picus Verlag, 1996) 金子 雅礼
- コミュニティへの容赦ない回帰と資本主義  
Miranda Joseph,  
*Against the Romance of Community.*  
(University of Minnesota Press, 2002) 北島 義和



[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2. 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。  
2) 編集委員会は本研究室の教官および大学院生代表者により構成される。  
3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4. 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教官、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。  
2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公開のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7. 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。  
2) 執筆要項は別に定める。

## 目次

### 〈論文〉

- 意味喪失と討議理論 上村 岳生 1
- 「紳士」という理想像の誕生と展開 竹内 里欧 13  
—— 近代日本の礼儀作法書にみる ——
- 外見問題に関する主体化の困難について 戸梶 民夫 29  
—— 男性型脱毛症とユニークフェイスの事例を参照して ——
- 共働き世帯の家事分担 遠藤 理子 57  
—— 保育園児のいる核家族・フルタイム共働き世帯の場合 ——
- 女子の言語使用における「思いやり」の原理とその文脈依存性 片田孫朝日 73  
—— 学童保育所の女子集団の遊びにおける要求表明の分析を中心に ——
- アルコール問題の概念化に関する一考察 佐藤 寛之 95  
—— 疾病概念を中心に ——

### 〈研究ノート〉

- 近代家族の「伝統化」：性役割分業に関わる「伝統の発明」 ライカイ・ジョンボル 119  
—— 京都市における聞き取り調査から ——

### 〈書評論文〉

- ルーマン理論と現象学 金子 雅礼 135  
Niklas Luhmann,  
*Die neuzeitlichen Wissenschaften und die Phänomenologie*  
(Wien: Picus Verlag, 1996)
- コミュニティへの容赦ない回帰と資本主義 北島 義和 143  
Miranda Joseph,  
*Against the Romance of Community*  
(University of Minnesota Press, 2002)

## 〈執筆者紹介〉(掲載順)

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページ (<http://www.socio.kyoto-u.ac.jp>) をご参照ください。

- |            |           |  |
|------------|-----------|--|
| 上村 岳生      | 博士後期課程3年次 | 社会理論、社会思想 (「ハーバマスの国家論」『京都社会学年報』第9号、2001年)。E-mail: <a href="mailto:takeo@socio.kyoto-u.ac.jp">takeo@socio.kyoto-u.ac.jp</a>   |
| 竹内 里欧      | 博士後期課程3年次 | 文化社会学、歴史社会学 (『欧化』と『国粹』——礼儀作法書のレトリック』『ソシオロジ』143号2002年、筒井清忠・竹内里欧の共同執筆、「出来事 解説」『百科で見る20世紀』(CD-ROM)『世界大百科事典 第2版』、平凡社、2000年)。   |
| 戸梶 民夫      | 博士後期課程2年次 | 理論社会学・差別論。外見差別という事象を中心に現代社会に特徴的なメンタリティの分析を行なう。E-mail: <a href="mailto:toka@socio.kyoto-u.ac.jp">toka@socio.kyoto-u.ac.jp</a>   |
| 遠藤 理子      | 博士後期課程1年次 | 家族社会学、ジェンダー論。とくに働く女性の仕事と生活について関心を持つ。(書評論文「時間に追われる人々—仕事と家庭の両立を困難にするもの—」『京都社会学年報』第9号、2001年)。E-mail: <a href="mailto:mitchy78@socio.kyoto-u.ac.jp">mitchy78@socio.kyoto-u.ac.jp</a>   |
| 片田孫朝日      | 博士後期課程1年次 | 男性学・ジェンダー研究 (論文「社会的スキルとしての男性性——学童保育所の男子集団の遊びにおける相互行為の分析から」『ソシオロジ』148号、2003年、書評論文「男性性の批判的研究——コンネルの「覇権的男性性」概念の問題」『京都社会学年報』9号、2001年)。E-mail: <a href="mailto:asahi@socio.kyoto-u.ac.jp">asahi@socio.kyoto-u.ac.jp</a>   |
| 佐藤 寛之      | 博士後期課程1年次 | 知識社会学、医療社会学。現代社会における「依存」やそれをめぐるセラピーに関心がある。   |
| ライカイ・ジョンボル | 博士課程2年次   | 家族社会学。社会学的家族研究のパラダイム変化に関わる比較研究、またハンガリー、中国大陸、台湾、日本の戦後における家族形態・家族規範の比較調査を行い、家族近代化に関わる収斂理論と分散理論を考察する (書評論文「親族関係からみた社会的交換の地域における多様性——農村社会における三つのケース・スタディの分析」『京都社会学年報』第8号、2000年、研究ノート「『核家族化と子ども中心主義』再考——30人の家族史の事例から」『京都社会学年報』第10号、2002年、論文 “Történelem és irodalom: képzelet és valóság a kínai elbeszél_ irodalomban” [History and Literature: Fiction and Reality in Chinese Narrative], <i>Kínai nyelv és irodalom</i> [Chinese Language and Literature], Budapest, 2003.。 E-mail: <a href="mailto:rajikai@socio.kyoto-u.ac.jp">rajikai@socio.kyoto-u.ac.jp</a> |
| 金子 雅礼      | 修士課程1年次   | 理論社会学。ニクラス・ルーマンを中心とした社会システム理論の研究。<br>E-mail: <a href="mailto:catwalk069@hotmail.com">catwalk069@hotmail.com</a>  |
| 北島 義和      | 修士課程1年次   | 地域社会学論。ローカル世界における生活者の共同性のあり方について探求。E-mail: <a href="mailto:kitajima@socio.kyoto-u.ac.jp">kitajima@socio.kyoto-u.ac.jp</a>  |

## 京都社会学年報 第11号

2003年12月25日発行

編集 京都社会学年報編集委員会  
(編集代表 寶月 誠)  
発行 京都大学文学部社会学研究室  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2758 FAX 075-753-2836  
製作 株式会社 田中プリント  
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入  
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



この本をそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行者へご連絡ください。



《Editorial Regulations》

- 1 . This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
- 2 .
  - i ) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
  - ii ) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
  - iii ) Details of the regulations of the Board are specially provided.
- 3 . Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
- 4 .
  - i ) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
  - ii ) Guidelines for contributors are specially provided.
- 5 . Contributions are limited to previously unpublished articles.
- 6 . Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
- 7 .
  - i ) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
  - ii ) The writing guidelines for contributors are specially provided.



# Kyoto Journal of Sociology

No.11 December 2003

## ARTICLES

- Sinnlosigkeit und Diskurstheorie Takeo UEMURA
- “Shinshi” as an Ideal Type:  
In Etiquette Books of Modern Japan Rio TAKEUCHI
- Difficulty of Subjectification about an Appearance Problem :  
A Case Study of Male Pattern Baldness and “Uniqueface” Group Tamio TOKAJI
- The Division of Household Labor in Double-Income Families:  
Nuclear Families with Both Parents Working Full-Time with Children in Nursery Schools Michiko ENDO
- “The Rule of Considerateness” and Its Context-Dependent Changes in Girl’s Language Uses:  
From an Analysis of Girl’s Directive Forms in Their Play Interactions Asahi KATADA SON
- A Study on the Conceptualization of Alcohol Problems:  
With a Focus upon the Concept of Disease Hiroyuki SATO

## RESEARCH NOTES

- “Traditionalization” of the Modern Family: Modern Divisions of Roles and an Invented Tradition:  
From a Survey in Kyoto City Zsombor RAJKAI

## REVIEW ESSAYS

- Niklas Luhmann,  
*Die neuzeitlichen Wissenschaften und die Phänomenologie.*(Wien: Picus Verlag, 1996) Masayuki KANEKO
- Miranda Joseph,  
*Against the Romance of Community.*(University of Minnesota Press, 2002) Yoshikazu KITAJIMA